

Molhos Marutti para cada receita, um molho especial. MARUITI

大西さん、打ち上げ成功

ソユーズで七ヶ月滞在へ 宇宙で4ヶ月滞在へ



ソユーズ宇宙船の打ち上げ前に、出発式に向かう大西卓哉さん(左)とカザフスタン・バイコヌール宇宙基地(共同)...

国際宇宙ステーションに2日後の9日に到着し、約4ヶ月間滞在する。日本実験棟「きぼう」の老化研究や無重力補給機「こうり」の受け入れなど、日本ならではの成果が期待される。

無人バスで移動... DENA 来月から「共同」デュー・エ

米、金正恩氏に初制裁 「国民弾圧の最終責任」

高給ブドウ1房110万円... 高級ブドウ、過去最高

文化庁移転実験11日から... 京都、テレビ会議で結ぶ

列島猛暑、38度超も... 熱中症が3人死亡

「当選請負人」が活躍... 選挙コンサル、参院選でも

米国際金融での影響が見... 米商務省は6日発表した

担当などを検討している... 候補地として、府警

日本人はすぐ殺された 邦人と隠れた店員証言

「タツカ共同」日本人男性と一緒に隠れた。バンクラ飲食店「ホーリー・アーティザン・ペーカリー」。

命乞いする店員に、ドアの前でロハン・イムティヤズ容疑者(20)は「大丈夫だ。向こうへ行け」と途中、階段の方

「ワシントン共同」米財務省は6日、北朝鮮で処刑や強制労働などの人権侵害に関与したとして

「共同」選挙で候補者のPR戦略を請け負う選挙コンサル、参院選でも

「共同」文化庁の全面的な移転に向けた実証実験が11日、京都府内で

「共同」文化庁の全面的な移転に向けた実証実験が11日、京都府内で

「共同」文化庁の全面的な移転に向けた実証実験が11日、京都府内で

「共同」文化庁の全面的な移転に向けた実証実験が11日、京都府内で

「共同」文化庁の全面的な移転に向けた実証実験が11日、京都府内で

Maravilhas do Leste Europeu 03 noites em Budapeste, 03 noites em Viena, 03 noites em Praga, 01 noite em Dresden, 03 noites em Berlim

Tarifas promocionais para JAPÃO Via Oriente Médio, Europa, Estados Unidos, Canadá e outras rotas.



「傷を癒して戻ってこい」

「おれ、あなたとメッシで争うことが上...」と尋ねられる度に、ペレは「おれ、おれ、これまではマラドーナと私、どっちが上と聞いていた...」



所屬バルセロナでの獲得タイトル数28に対し、メッシは10、ペレは10。このまま代表を引退してしまおうか。G1: Leonardo/Imprensa Me

今回はメッシと自身の比較問題ではなく、メッシの代表引退宣言へのコメントを求められての回答だった。ペレは「メッシに代表引退を撤回するように求めた。メッシは代表として10年のキャリアがありながら、07年と15年のコパ・アメリカ、16年のW杯決勝で敗れており、最近も米開催の...



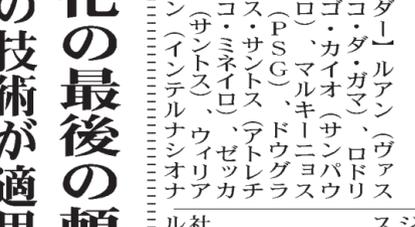
サッカー五輪代表のロジェリオ・ミカール監督 (Rafael Ribeiro/CBF)

ペレ:「彼は良い奴か? 俺は直接知らないんだ」 マラドーナ:「良い奴ではあるけど、リーダーの資質はない」

輪18人の出場選手発表 五サッカ NeymarにベテランGKも

この内容の手紙が大反響を呼ぶなどしている。現在、メッシは喧嘩を繰り返している。ペレは「メッシは喧嘩を繰り返している。ペレは「メッシは喧嘩を繰り返している。ペレは「メッシは喧嘩を繰り返している。」

豪州の技術が適用可能に 水質浄化の最後の頼み? リオ五輪 豪州の技術が適用可能に



豪州の技術がグアナバラ湾浄化のための救世主となるか? (Fernando Frazao/Agencia Brasil)

包装にアレルギー明記 アレルギートリプルに朗報

赤潮発生で人体への影響懸念

8月下旬よりビートルズ展 凝った内容で聖市開催

高くついた悪戯の代償

カキ、アサリ、ホタテなどの採取禁止

バケツの水かけようとして逮捕

ジャナイーナに激しい野次

反ジウマの女闘士も困惑

ジウマ大統領に罷免請求を出した弁護士として有名なジャナイーナ・パスコアル氏が6月29日、ブラジリアの空港で熱烈的なジウマ支持者から罵声を浴びる一幕があった。

ジャナイーナ氏はこの日、ブラジリアから聖市へ向かう途中、他の乗客と共に列に並び彼女を有る集団がとり囲み、「ゴルピスタ! (クーデター扇動者)」の罵声を浴びせられた。



ジウマ大統領の罷免請求を作成したことで知られるジャナイーナ弁護士 (Edilson Rodrigues/Agencia Senado)

世界技術特許の登録も果たしている。この技術は豪州近海のカキの養殖に開発された。カキは水質の変化に敏感で、その養殖には非常に厳格な水質管理が必要とされる。

汚染が酷く、浄化の最終手段として、水中に網を張って競技エリアに浮遊物が流れ込むのを防ぐ計画が示唆されている。

伯国でも人気のスペインの鬼才監督、ペドロ・アルモドバル監督の最新作。

【サッカー】 伯国でも人気のスペインの鬼才監督、ペドロ・アルモドバル監督の最新作。

【7/8から7/14のコンサート】 7/8 (金) ・ベスト・オブ・ブルース2016 (トム・ブラジル Rua Braganca Paulista, 1281 - Vila Cruzeiro)

【7/7日より公開の映画】 ・アイス・エイジ5 (米国/ア・エラ・ド・ジェロ ビッグパン)

【現在開催中の展覧会】 ・ピカソ展 (トミエ・オオタケ美術館 Avenida Faria Lima, 201, (Entrada pela Rua dos Coropes, no 88) - Pinheiros)





# 『悪の論理』で世界は動く！

## 日本が生き残るための地政学

『悪の論理』で世界は動く！(奥山真司著) フォレスト出版 2010年2月



地政学 日本を国際化する中国、捨てざる米国

日本の国際化について日本はすべてアメリカの戦略のもと、何も考えずには進んで来た。奥山真司は、現在もその状況は変わらぬ、という。しかし、1985年、マルタ会談によりロシアのゴルバチョフとアメリカのジョージ・H・W・ブッシュの宣言により、長きにわたった冷戦時代は終結を迎えた。それから20年あまり、日本とアメリカの関係はさほど変化はないが、アメリカの軍事における東アジアのプレゼンスは確実に低下している。

とはいえ、東アジアにはアメリカにとって脅威として変わらない共産主義国が存在している。中国と北朝鮮である。とくに中国は現在、経済大国としてのし上がりつつある。中国は太

ある。世界が何を考え、どんな戦略を打つてくるか、地政学を知らなければ取るようにわからない。相手を知り、わが身を知らないと、日本に求められる火急の課題なのである。しかし残念なことに、地政学上、日本が選択すべき道はたった三つしか残されていない。★日米同盟の維持 ★中国による属国化 ★日本の独立 あなたはどの道を選ぶだろうか。これら三つの道は、当時の地政学は軍事戦略の学問として、戦争のための道具として使われていたからである。なぜならば、当時の地政学は軍事戦略の学問として、戦争のための道具として使われていたからである。なぜならば、当時の地政学は軍事戦略の学問として、戦争のための道具として使われていたからである。

そう、知らないのは日本だけなのである。この学問は戦前の日本でも研究されてきたが、敗戦後、封印されてしまった。なせならば、当時の地政学は軍事戦略の学問として、戦争のための道具として使われていたからである。なぜならば、当時の地政学は軍事戦略の学問として、戦争のための道具として使われていたからである。

その、このアイデンティティを見いだすヒントが、地政学に隠されている。では、その地政学とは何なのか。この本では、地政学の入門を解説しながら、まさに日本にとってのアイデンティティを探っている。これまで、冒険に述べた日本同盟のもと、国民は外交について自ら考えてこなかったのだ。これをアメリカによって骨抜きにされた結果だと、奥山は警告する。私にはそう考えた。自国のことは自国で考えなければならぬ。私が研究している「地

とも十年以内に、二流三流の地位まで確実に落ちていくことになる。本気で考えて。私は何もこういうことを言っていない。皆さんを脅かそうと思っているわけでもない。ただ現在の日本の状況を冷静に見れば、どう考えてもそういう結論しか出てこないのだ。しかし、日本はそのまま落ちこぼれるというわけではない。何年後になるかわからないが、日本はしぶとく復活するはずである。国家というものはいつまでも落ちこぼれない。自覚した国民が生まれ、それが国を復興することに必要となる。決定的に必要となる。理想である。本書でも紹介した地政学の祖であるマッキン

### なぜリーダーはウソをつくのか 国民には嘘、元首同士は本音？

この「なぜリーダーはウソをつくのか」のエッセンスを一言でいえば、「国家のリーダー同士は互いにそれほどウソをつかないが、国民に向けてはウソを頻りに使う」という意外な結論にある。

まさかこのような結論に至るとは、原著者であるミアシヤイマール教授自身も「最初信じられなかった」と書いている。この本には、これまで私に読ませてきた幾つかの書籍と同様に、私たちが個人にとって非常に多く「ウソ」が使われた事例

である。世界が何を考え、どんな戦略を打つてくるか、地政学を知らなければ取るようにわからない。相手を知り、わが身を知らないと、日本に求められる火急の課題なのである。しかし残念なことに、地政学上、日本が選択すべき道はたった三つしか残されていない。★日米同盟の維持 ★中国による属国化 ★日本の独立 あなたはどの道を選ぶだろうか。これら三つの道は、当時の地政学は軍事戦略の学問として、戦争のための道具として使われていたからである。

「悪の論理」で世界は動く！(奥山真司著) フォレスト出版 2010年2月



2016年4月25日、ドイツのハンノーバーに集まった欧米の首脳たち (Foto: Georgina Coupe/Crown Copyright)

静に分析した、地政学という学問が与えてくれる視点なのである。彼が1919年に発表した「デモクラシーの理想と現実」という本の題名は、このような理想と現実のバランスの大切さを訴えている。そして、私がとくに訴えたいのは、日本人が豊かに持っている「理想」(もしくは妄想?)よりも、「現実」を冷静に見る目のほうなのだ。私が数年前から思っているのだが、世界はこれからますます複雑化していく。先の見えない場になるというのである。そして日本は、「力オス化」された状況の中で自立を目指す必要がある。自立を目指す必要がある。自立を目指す必要がある。自立を目指す必要がある。

しかし、私がこの本で訴えたいことはただ一つ、日本人は「悪の論理」である「地政学」と「リアリズム」の思考法を身につけなければならぬ、ということである。日本人は自分で責任を持って戦略を考へるといふ思考を捨ててしままい。安易に平和的解決だけを求めるといふ体質が染みついてしまった。たとえば、外交における戦略も「善か悪か」で判断するため、善を探そうとするあまり、次の一手がどうしても遅くなる。しかも、日本が「善かれ」と思って世界に主張したことは、まずもって善くして見られていない。他国はリアリズムの視点で「日本が何を狙っているのか」と冷静に見ているのだ。だからこそ、わが国も外交戦略を「善悪」ではなく、「強弱」で見るといい。強弱とは、現在わが国にとって、この政策は他国と比べて立場を強めてくれるのか弱めるのかという冷静な判断である。弱いのであれば、より強い政策を打ち出さなければならぬ。強いのであれば、外交における戦略も「善か悪か」で判断するのではなく、善を探そうとするあまり、次の一手がどうしても遅くなる。しかも、日本が「善かれ」と思って世界に主張したことは、まずもって善くして見られていない。

「悪の論理」で世界は動く！(奥山真司著) フォレスト出版 2010年2月

「なぜリーダーはウソをつくのか」のエッセンスを一言でいえば、「国家のリーダー同士は互いにそれほどウソをつかないが、国民に向けてはウソを頻りに使う」という意外な結論にある。

まさかこのような結論に至るとは、原著者であるミアシヤイマール教授自身も「最初信じられなかった」と書いている。この本には、これまで私に読ませてきた幾つかの書籍と同様に、私たちが個人にとって非常に多く「ウソ」が使われた事例

である。世界が何を考え、どんな戦略を打つてくるか、地政学を知らなければ取るようにわからない。相手を知り、わが身を知らないと、日本に求められる火急の課題なのである。しかし残念なことに、地政学上、日本が選択すべき道はたった三つしか残されていない。★日米同盟の維持 ★中国による属国化 ★日本の独立 あなたはどの道を選ぶだろうか。これら三つの道は、当時の地政学は軍事戦略の学問として、戦争のための道具として使われていたからである。

その、このアイデンティティを見いだすヒントが、地政学に隠されている。では、その地政学とは何なのか。この本では、地政学の入門を解説しながら、まさに日本にとってのアイデンティティを探っている。これまで、冒険に述べた日本同盟のもと、国民は外交について自ら考えてこなかったのだ。これをアメリカによって骨抜きにされた結果だと、奥山は警告する。私にはそう考えた。自国のことは自国で考えなければならぬ。私が研究している「地

とも十年以内に、二流三流の地位まで確実に落ちていくことになる。本気で考えて。私は何もこういうことを言っていない。皆さんを脅かそうと思っているわけでもない。ただ現在の日本の状況を冷静に見れば、どう考えてもそういう結論しか出てこないのだ。しかし、日本はそのまま落ちこぼれるというわけではない。何年後になるかわからないが、日本はしぶとく復活するはずである。国家というものはいつまでも落ちこぼれない。自覚した国民が生まれ、それが国を復興することに必要となる。決定的に必要となる。理想である。本書でも紹介した地政学の祖であるマッキン

「悪の論理」で世界は動く！(奥山真司著) フォレスト出版 2010年2月

「悪の論理」で世界は動く！(奥山真司著) フォレスト出版 2010年2月

「なぜリーダーはウソをつくのか」のエッセンスを一言でいえば、「国家のリーダー同士は互いにそれほどウソをつかないが、国民に向けてはウソを頻りに使う」という意外な結論にある。

まさかこのような結論に至るとは、原著者であるミアシヤイマール教授自身も「最初信じられなかった」と書いている。この本には、これまで私に読ませてきた幾つかの書籍と同様に、私たちが個人にとって非常に多く「ウソ」が使われた事例

である。世界が何を考え、どんな戦略を打つてくるか、地政学を知らなければ取るようにわからない。相手を知り、わが身を知らないと、日本に求められる火急の課題なのである。しかし残念なことに、地政学上、日本が選択すべき道はたった三つしか残されていない。★日米同盟の維持 ★中国による属国化 ★日本の独立 あなたはどの道を選ぶだろうか。これら三つの道は、当時の地政学は軍事戦略の学問として、戦争のための道具として使われていたからである。

その、このアイデンティティを見いだすヒントが、地政学に隠されている。では、その地政学とは何なのか。この本では、地政学の入門を解説しながら、まさに日本にとってのアイデンティティを探っている。これまで、冒険に述べた日本同盟のもと、国民は外交について自ら考えてこなかったのだ。これをアメリカによって骨抜きにされた結果だと、奥山は警告する。私にはそう考えた。自国のことは自国で考えなければならぬ。私が研究している「地

とも十年以内に、二流三流の地位まで確実に落ちていくことになる。本気で考えて。私は何もこういうことを言っていない。皆さんを脅かそうと思っているわけでもない。ただ現在の日本の状況を冷静に見れば、どう考えてもそういう結論しか出てこないのだ。しかし、日本はそのまま落ちこぼれるというわけではない。何年後になるかわからないが、日本はしぶとく復活するはずである。国家というものはいつまでも落ちこぼれない。自覚した国民が生まれ、それが国を復興することに必要となる。決定的に必要となる。理想である。本書でも紹介した地政学の祖であるマッキン

「悪の論理」で世界は動く！(奥山真司著) フォレスト出版 2010年2月

「悪の論理」で世界は動く！(奥山真司著) フォレスト出版 2010年2月

「悪の論理」で世界は動く！(奥山真司著) フォレスト出版 2010年2月

「悪の論理」で世界は動く！(奥山真司著) フォレスト出版 2010年2月

なぜリーダーはウソをつくのか

なぜリーダーはウソをつくのか「ウソ」の発想のヒント

奥山真司著

日本の情報・戦略を考えるアメリカ通信 <http://www.realist.jp>  
 ▼奥山真司の「悪の論理」番組へご意見・ご感想はこちら <http://www.realist.jp/goiken.html>  
 ▼YouTube THE STANDARD JOURNAL <https://www.youtube.com/user/TheStandardJournal>  
 ▼THE STANDARD JOURNAL ~「アメリカ通信」 <http://ch.nicovideo.jp/strategy>  
 ▼FacebookPage: 「THE STANDARD JOURNAL」 <https://www.facebook.com/realist.jp>  
 ★奥山真司への講演依頼・執筆依頼は、[webmaster@realist.jp](mailto:webmaster@realist.jp) までお問合せ下さい。

# 300人が開拓先亡者弔う

## パラナ連合会、移民の日に



追悼文を読む吉田副会長と、出席した(前列右から)西森下議、等道博首席領事

パラナ州の連合会「リーガ・リアンサ」(折登リカルド会長)が6月18日、パラナ州ローランジャ市の日本移民センターでパラナ開拓先亡者追悼祭を開催した。寺道博首席領事、西森ルイス連邦下議、折登会長を始め約300人が参加した。折登会長から追悼文が読み上げられ、寺道首席領事が追悼の言葉を述べた。昨年の外交120周年、パラナ州兵庫開拓45周年、秋篠宮ご

は空気を吸い、牛や豚、鶏などの命を頂いて生きている。昔の人は目に見えないものにこそ、本当に大切なものがあるとした」と説き先人に敬意を表した。



焼香するローランジャ婦人会の人達

は空気を吸い、牛や豚、鶏などの命を頂いて生きている。昔の人は目に見えないものにこそ、本当に大切なものがあるとした」と説き先人に敬意を表した。

輝く天の川島に注ぐ 小島・七ヶ 節氣の一つ、「小暑」 梅雨明けが近づき、本格的な暑さになるころとされ、七夕と重なる。6日

未明、霧島市福山の海岸から、桜島上空に天の川が見えた。午前2時ごろから1時頃ほどは雲に覆われたものの、夜明け前まで空に輝く天の川が見えた。7日

日も雲がかからなければ 観察できそう。 桜島の上空に広がる天の川

# 600足のスパイク伯国児童へ

## ミズノが元セレソン財団らに



記念撮影に収まる関係者ら(提供写真)

日本のスポーツメーカー「ミズノ」が当地の恵まれない児童を対象に、合計600足のスパイクを寄贈した。

カシメーズを寄贈した。日本政府の国際貢献事業「スポーツ・フォー・トゥモロー」の一環。その内100足が在聖領事館を通じて、聖州タクアリチンガの慈善団体「エジミウソン財団」に贈られた。

同財団は2002年サッカーW杯日本大会の優勝メンバー、エジミウソン・ジョゼ・ゴメス・デ・モラエスさんが設立した団体。主に低所得者層の子どもの対象にサッカー、空手、ITと音楽教育などを通じて、情操教育や社会支援を行っている。現在300人ほど

が、そこには半年しかいなかった。その耕地で日中は汗を流し、夜は暑さで眠れず、生活を送っていた。作物を植えるための費用をどう捻出するかが問題だった。土地代を払えば作付けを断念しなければならぬ。作付けしただけならスペインから土地を買取り、頭をいたためていく。頭をいたためていく。頭をいたためていく。

# 日本移民 108周年記念 実録

## 第8章 恩赦

戦争が幕を閉じる前後から、ブラジルでは臣道連盟が活動しはじめた。臣道連盟は1945年に創立された組織で、一世(日本生まれの日本人)やその子孫でありながら、日本帝国への忠誠心を欠いた者に対しては、暴力行為を実施して戦争が終わると同時

# 囚人の署名

## 平リカルド著(共訳)



中田みちよ 栗原 章子

に、日本の敗戦を認める人々「負け組」と、「勝ち組」の強硬派は抗争をはじめ、サンパウロ州を中心に、百四十人に怪我を負わせた。勝ち組の強硬派の一人池田アントニオは、彼に与えられた任務を遂行させることができず、逮捕された。拘置所で兵士と再会したのである。囚人の多数は有罪判決が決定して

一九四三年から拘置されていた。また判決待ちの状態であった。一九四七年十一月一日に拘置所は、政治社会治安局から申請されて日本人の拘留者リストを作成した。裁判待ちの拘留者はフサキチ・フジイ、ヒデオ・オカワ、ヒササト・ミタケ(もしヒササト・ミタケ)ヒサオ・イケハタ、ニサシ・カイ、カスマ・ノセ、カウト・カ

イ、カウト・ヨシマ、コレイ・カト、コサル・ゴト、マサオ・フジイ、マサオ・ホンダ、ノブオ・フジイ、オユキオ・フジイ、蒸野サンゾ、サトリ・ヤマモト、セイキシ・ハイカワ、重男・ヒラマ、スギオ・ヤマ、もしくはスエト、池田龍生(もしくはアントニオ)、テツオ・クワ、トミオ・アオキ、トシオ・ヒラマ、トシオ・ヨキモシオ、クトニ並びにセンゴロ・ヨシオカとなっていた。裁判待ちのなかには婦女もいた。イオ・ヒラマ、サダコ・ヒラマ、サコ・フジイ、テル・シナコ、フジイ、トシコ・ゴトで、頭部の後ろや耳の毛を

残して、禿げあがっていた。赤い顔をして、しよつちゆう汗をかき、囚人服に汗の染みができている。その半蔵と兵衛はすでに知り合っていた。二人は最初、移民収容所を出て、土地代を払えば作付けを断念しなければならぬ。作付けしただけならスペインから土地を買取り、頭をいたためていく。頭をいたためていく。頭をいたためていく。

この耕地には四〇家族がはいっていたが、全般的に栄養不良のところへ、40度以上の高熱に襲われるマリアが流行り、居城半蔵は毎日のように死んでいく羽目。大人、老人を見る羽目。内家族の三人も死んでしまったのである。



自伝小説 月のかけら 筑紫 橘郎

それでも早めにエゴノミークラスの通路側に席を取り、寝た振り始めた。千年君、どう見ても見られた者じゃないが、飛行機は定刻の一時半、滑るように走り出した。こうなると千年君、安心したのか、少し眠気を感じた。

「ああ、解かた。後でゆつくり話そう」と言ったら、すんなり頷き、自分の席に戻った。千年君、「オヤツ、隣の人がいない。席を間違えたか」とキョロキョロしていたら、すうと人が座った。気付いて太郎は腰が抜けたように、ストンと空いている席に尻もち就いた。太郎は二度びっくり。自分の隣に須磨子さんが当たり前のような顔で座っていた。ようやく太郎君は冷静に戻った。そう言う事か。須磨子さんは機内に入るまでは誰にも知られないように、お膳立てしていたのだ。これには千年の友人、ダルマ屋の岡崎幸夫さんが千年から聞いて知っていたのだ。岡崎さんは須磨子さんの近所に住んでいて、全部筒抜けになっていたとは、知らぬが仏の千年君でした。

**BOLETO BANCÁRIO**

De acordo com o Banco Central, todos os boletos bancários só poderão ser emitidos com o número do CPF se Pessoa Física e CNPJ se Pessoa Jurídica. Portanto, de acordo com o Banco do Brasil não podemos mais emitir nenhuma cobrança sem o número destes documentos.

**O NIKKEY SHIMBUN vem solicitar o número do CPF do titular da assinatura do jornal para que possamos enviar o boleto bancário de renovação de assinatura.**

Aos assinantes que NÃO informarem este documento, poderão efetuar o pagamento na forma de "depósito bancário" e o comprovante deverá ser transmitido via E-mail ou através do Fax. O comprovante enviado será conferido e emitido o RECIBO DE QUITAÇÃO, sem esta quitação a assinatura continuará em aberto.

**もしCPFをお知らせ頂けない場合の購読延長は…**

- ①ニッケイ新聞社の銀行口座にお振込み頂きます。
- ②振込み証明書(Comprovante de Depósito ou de Transferência)のコピーを本社宛にお送り頂きます。(FAX、Eメール、郵便のいずれか)
- ③こちらで確認の後、領収書をお送りします。

**ニッケイ新聞社から重ねてのお願い**

**CPF (納税者番号)を本社までお知らせ下さい**

銀行振り込みで購読料をお支払い頂いている皆様全員が対象です。法人の方はCNPJ。

購読者の方でCPFをお持ちでない方は、ご家族内でお持ちの方のお名前と、番号をお知らせ下さい。番号のない場合は、銀行振込用紙(Boleto Bancário)が発行出来ず、購読延長の手続きが複雑になります。

お電話、FAX、Eメール又は郵送でお知らせ下さい。お手数をおかけしますが、ご協力お願い申し上げます。

※すでにお知らせ頂いた皆様には、お礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。※購読関係以外に番号を使用する事はありません。

Editora Jornalística União Nikkei Ltda.  
Rua da Glória, 332 - Liberdade  
CEP 01510-000 - São Paulo - SP  
TEL: (11) 3340-6060 (Seg.~Sex. 9:00 ~ 16:00)  
FAX: (11) 3341-6476  
E-mail: nikkeyshimbun@yahoo.com.br

下記の用紙にご記入頂き、本社まで郵送下さい。郵送料は皆様方のご負担となります。ご了承下さい。

Nome do Assinante \_\_\_\_\_  
Endereço \_\_\_\_\_  
Tel ( ) \_\_\_\_\_  
Nº do CPF \_\_\_\_\_  
Nome do Titular \_\_\_\_\_



